



ロータリーのマジック

2024-25 年度 RI テーマ

THE MAGIC OF ROTARY

国際ロータリー会長
ステファニー A. アーチック

Weekly Bulletin

藤枝南ロータリークラブ 会報

例 会：毎週金曜日
会 場：小杉苑 藤枝市青木 2-35-30
T E L：054-641-3321

事務局：藤枝商工会議所内
T E L：054-646-3919 F A X：054-643-2000
E-mail：jimukyoku@fujieda-south-rotary.jp

2024-25 年度
会長：漆畑雄一郎 副会長：鈴木寿幸 幹事：中山恵喜 副幹事：加藤智之

例 会 第 1 5 6 3 回 通常例会/小杉苑

ソング：四つのテスト、浜辺の歌 ソングリーダー：山田幸保君

■ 会長挨拶 漆畑雄一郎君



先週は納涼夜間例会ということで静岡まで足をお運びいただきましてありがとうございました。改めまして設営いただいた親睦のメンバーにも感謝いたします。

今週は台風ウイークで、水曜日道路が大混雑しましたが、特に本日は朝から JR は全て止まっていますし、道路も新東名・東名そして 150 号線まで通行止めで、全く身動きがとれないような状態の中にもかかわらず、例会に出席いただきましてありがとうございます。さて、さる 8/18 に次年度当クラブより排出しますロータリー青少年交換長期派遣学生の試験が静岡商工会議所会館にて行われました。国語・数学・英語・理科・社会の五教科の筆記試験が 20 分間、その後面接試験をガバナーはじめ委員会メンバーと受けてきました。結果、8/20 に合格通知をいただき、一つの大きな山を越えることができました。今後何度かのオリエンテーションを経て派遣ということになるかと思いますが、メンバー皆様のバックアップを引き続きお願いします。

8/22 は処暑、夏の暑さが和らぐ頃です。マツム

シヤ鈴虫など心地よい虫の声が聞こえてきます。稲穂が色づきはじめると同時に台風の季節も到来します。処暑の七十二候は綿柎開（わたのはなしべひらく）、天地始肅（てんちはじめてさむし）、禾乃登（こくものすなわちみのる）です。

■ 出席報告 鈴木健夫君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
41/51 80.39%	42/51 82.35%

(1) 欠席者（事前連絡とメイクアップをどうぞ）

- 阿井君 ○稲葉君 ○大村君 ○川口君 ○富澤静君
- 中村君 ○平原君 ○増田君 ○村松君 ○渡邊博君

(1) メイクアップ者

- 数野晴紀君（藤枝） 富澤静雄君（藤枝）
- 富澤賢一君（南） 森竹正晃君（南）

食事準備数	食事提供数	残	累計残
43	43	0	5

パーフェクト例会数：😊😊😊😊

欠席連絡は、当日朝10時前までにお願いします

■ スマイルBOX 鈴木健夫君

- ・駅前 1-9 街区再開発により自宅が解体される事に依って新しい土地を求め新築する事になりました。竹田君のヤマタケ建設にお願い

し、木造平屋の自宅を気合いを入れて素晴らしい家を建てていただき去る8月8日に引越しをしました。今回で3回目の自宅建設になりました。
朝比奈梨君

スマイル累計額 135,890円

■ 会員卓話



渡邊芳隆君

こんにちは、渡邊次男です。宜しくお願い致します。私は、ガス屋さんです。ガスについてお話をさせていただきます。

LPガスとは

LPガス(LPG)とはLiquefied(液化)Petroleum(石油)Gas(ガス)の頭文字をとった液化石油ガスの略称です。LPガスは常温常圧下では気体ですが、常温下2~7気圧程度の低い圧力を加えたり冷却することによって簡単に液体になります。液体になる温度はプロパンで-42℃、ブタンで-0.5℃です。

現在国内で利用されているLPガスは、約4分の3を海外から輸入し約4分の1を国内で生産しています。輸入LPガスは、サウジアラビアをはじめとした中東地域やその他の地域において、天然ガスや原油に随伴して生産されます。また、国内LPガスは国内で原油を精製して製品化されています。

日本のLPガスの需要

日本におけるLPガス需要は、1956年(昭和31年)からのデータが記録されています。残念ながらそれ以前のLPガス扱い量に関する記録はありません。

なお、日本における本格的なLPガス利用の歴史は、1962年(昭和37年)からです。

日本国内で、燃料として最初にLPガスが使用されたのは、1929年(昭和4年)、有名なツェッペリン伯号の飛行船が飛来した時と記録されています。この時、プロペラ推進エンジン用にLPガスが使用されていました。

日本人の手によるものとしては、台湾の油田ガスから分離されたLPガスで自動車を台湾で走

らせた記録があり、国内では、1940年(昭和15年)頃に、油田や製油所で分離されたLPガスがガソリンの代替燃料として、一部で使われていたという記録があります。なお、自動車用燃料としてLPガスが本格的に普及し始めたのは、1963年(昭和38年)からで、タクシーの燃料として使われ始めました。現在では、全国で約30万台のLPガス車が、クリーンエネルギー自動車として走っています。

また、家庭用燃料としてLPガスが使われ始めたのは、1952年(昭和27年)頃とされています。この頃、都市ガス地域以外の家庭用燃料は、薪・炭・練炭が主流でした。LPガスは、マッチ一本で火がつき、取り扱いが便利でハイカロリーなエネルギーとして普及していきました。(この頃の都市ガスは、カロリーが低く、LPガスの4分の1以下が一般的でした)。なお、家庭用LPガスは1960年代になると、驚異的な増加を示し、今や全世帯の50%以上を占めるに至りました。

日本においてLPガスは、現在13,000万トン使われており、国内一次エネルギーの4%強を占めています。LPガスの用途は、家庭業務用のみならず、自動車用、工業用、化学原料用、都市ガス用や電力用などに幅広く使われています。

世界のLPガスの需要

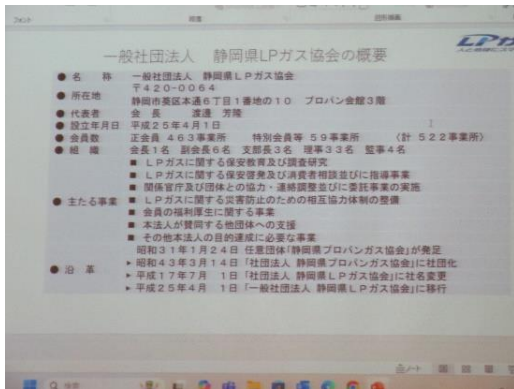
LPガスの埋蔵量は

化石燃料の需要を考えると、その化石燃料が、あと何年間採掘できるかが重要な問題です。埋蔵量には、大別すると原始埋蔵量と可採埋蔵量があり、原始埋蔵量とは生産開始前の状態で貯留岩中にある化石燃料の総量を言い、可採埋蔵量とは、そのうちで一定水準の技術で採掘可能な量を言います。可採埋蔵量を生産量で割った値が可採年数になります。原子埋蔵量から実際に採掘できる可採埋蔵量は、油田、ガス田によって数%から数十%程度の幅があります。

LPガスは、採掘された原油・天然ガスから生産・供給されるので、LPガスの生産可能年数は、原油・天然ガスの可採年数と同じと考えることができます。

現在、天然ガスの可採埋蔵量は約60年分であり、原油の可採埋蔵量は約40年分です。可採埋蔵量は、採掘によって毎年減少するものと認識されがちですが、実際は微増しています。その理由は、新たな埋蔵場所が確認されたり、新しい技術により採掘可能な範囲が拡大したりすることによります。また、石炭の可採埋蔵量は、あまり使

われていない現状からみると約200年分以上ある
とされています。



例会プログラム

例会日	クラブ行事	摘要
9/6(金) 第 1564 回	会員卓話	理事会
9/13(金) 第 1565 回	外部卓話	小杉苑
9/20(金) 第 1566 回	早朝例会	
9/27(金) 第 1567 回	外部卓話	小杉苑

今週の一言

朝比奈黎君



今までに宿泊して無い所も有りますが、全国四十七都道府県全てに行っています。思い出深い所は色々有りますが、

何と言ってもその土地ならではの食べ物です。中でも思い出深いのは青森十二湖のしじみ、この辺のしじみと比べたら倍の大きさと食べごたえ十分です。次に琵琶湖の稚鮎の甘露煮、山椒がきいて酒の肴にぴったりです。次に伊勢湾的矢湾で一周クルージングをして船上バーベキューです。海風に吹かれながら伊勢海老、蛤、鮑と次々と焼かれてどんどんビールが進みます。是非皆さんも旅行に行かれたらその土地ならではの美味しい食べ物を味わって下さい。



(担当/鈴木照君)